

### (3) 大崎圏域会議

【日時】令和6年9月11日（水）午後4時から午後5時55分まで

【場所】大崎合同庁舎1階 大会議室

#### (1) 宿泊税を活用した施策について

- 薬菜の施設群や、ゆ〜らんどは知名度があるものの、町の奥まった地域にある。仙台から1時間程度で着くため宿泊につながっていない現状がある。
- コロナ禍からの回復もまだ遅れており、施設の老朽化も進む中で、県内の観光振興を目指す今回の制度創設、周遊促進、国内外の交流拡大施策への期待は大きい。
- 宿泊税は今後必要だと思うが、先行県では観光指針の考え方に沿って宿泊税の充当施策が作られており、先に第6期観光戦略プランを固め、それに沿って充当施策を決めるのが本当だと思うし、充当施策については、仙台市との住み分けが決められていると、分かりやすい。
- 宿泊税を活用した施策として、もう少し“ワクワク”するような内容を考えてもらいたい。
- 観光地に出かけたとき、説明員やイヤホンガイドによる情報があると理解が深まるので、例えば大崎の世界農業遺産について、二次元コードによりスマホで多言語含めた説明が受けたりできるような取組などで客の満足感は上がると思う。
- 二次交通に対する施策がポイントで、バス運行への補助などにより、不便なエリアの末端まで“力”を授けられるようになると思う。
- 週末は公共交通がない地域もあり、市町村が公共バスを運行し来客が見込める宿泊事業者等にも負担を求めるなど、WIN-WINの関係構築もあり得る。
- 市町は財政が年々厳しくなっている中、観光に関する事業費確保が難しくなっており、観光客増加に向け、どのような施策を講じるか考える際に、宿泊税に伴う市町村交付金を観光振興施策に使えるというのは、現場からすれば魅力を感じる。
- 各市町村に対する概算額を示してもらえると、今後の展望が開けると思う。
- 地域資源の活用や観光地の賑わい創出、市町の実情に応じた交付金メニューが増え、鳥獣被害や観光地の施設整備等にも対応できる制度となることを期待している。

## (2) 宿泊税の導入に当たって県に求める取組・対応等

- 先行県では、宿泊税を受け取る宿泊事業者の負担軽減と（免税点未滿への値下げ競争など）マーケット縮小への危惧から免税点を設定していない例が多い。
- 300円という宿泊税を払って、本当に客に満足してもらえるものができるか、現在のプランでは心配。
- 8月の意見交換会での県の説明によれば、他県の事例では約5%の客がクレームをつけるというが、客の5%にクレームをつけられたら受付業務が成り立たないし、非常に解決が難しいと思っている。
- 新しい税ということで、経理の事務作業が増えるのではないかと心配している。
- 観光開発施策のために宿泊施設だけが負担を強いられることには疑問がある。
- 鳴子の旅館・ホテルの事業者はほとんどが宿泊税導入に反対しており、観光振興のための財源が必要なのは知っているが、観光振興の財源が宿泊税となるのは困る。
- 宿泊客に観光行動の自覚がなければ税納付の際にトラブルとなる。
- 専門家からは、県が課税根拠とする、宿泊者の観光行動や公共サービス受益という論理はおかしいと言われており、そこをクリアにしてもらえなければ宿泊税には反対する。
- 宿泊税導入により、宿泊施設はフロントでのトラブル、人手不足の中で時間を取られるといったリスクを抱えることになるし、現在はクレジット決済が主流で、特別徴収義務者交付金はカード会社等への手数料で消えてしまう。また、レジシステム改修補助金では改修費用の一部しか賅えず、事業者負担が大きい。
- 宿泊税を活用した重点施策として説明のあった内容だが、1から4の取組では、どういう事業を行うのか具体的な姿が見えない中での宿泊税導入は疑問。
- 展開イメージで鳴子がフックとなる事業を挙げているが、鳴子の宿泊事業者が納得できていない中で、県と事業者が協力して事業を進められるのか心配。

- 宿泊税が導入された場合、事務作業、接客、食事出しを自分達で行う家族経営の宿泊事業者には負担が大きいし、負担軽減策として示されているカスタマーセンターにしても24時間対応してもらえなければ、結局負担は減らない。
  
- 本日の会議が急に行われたことは疑問で、9月議会に間に合わせるためではないか。各地域でしっかり意見を交換し、取り組む具体的な施策が決まった段階で宿泊税導入を提案するのが筋ではないか。